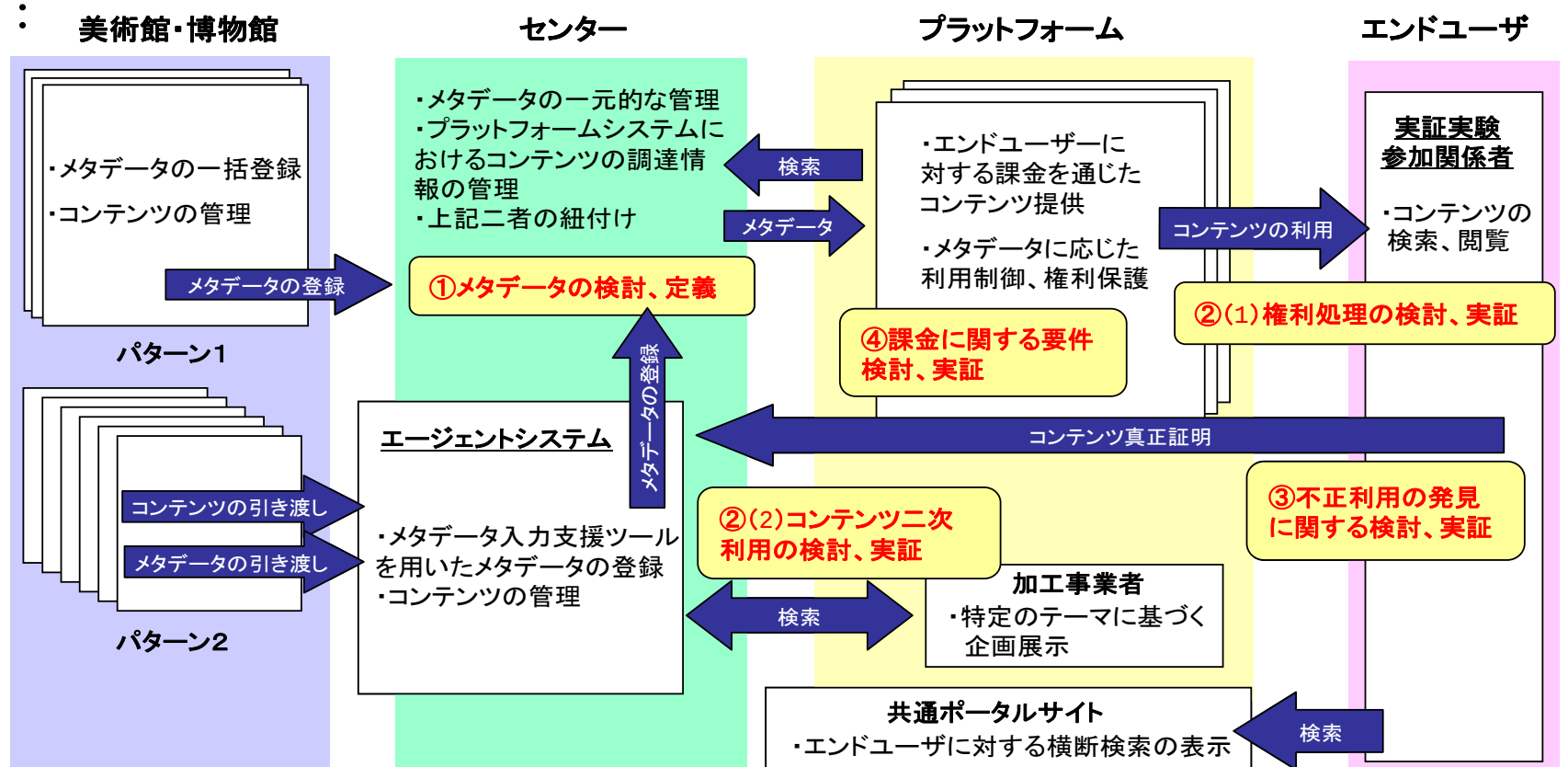


研究テーマ:メタデータを活用した文化遺産情報のネットワーク利活用に資する技術の開発・実証(1/2)

(プロジェクト番号 JGN2-A16051)

研究機関: 東日本電信電話株式会社

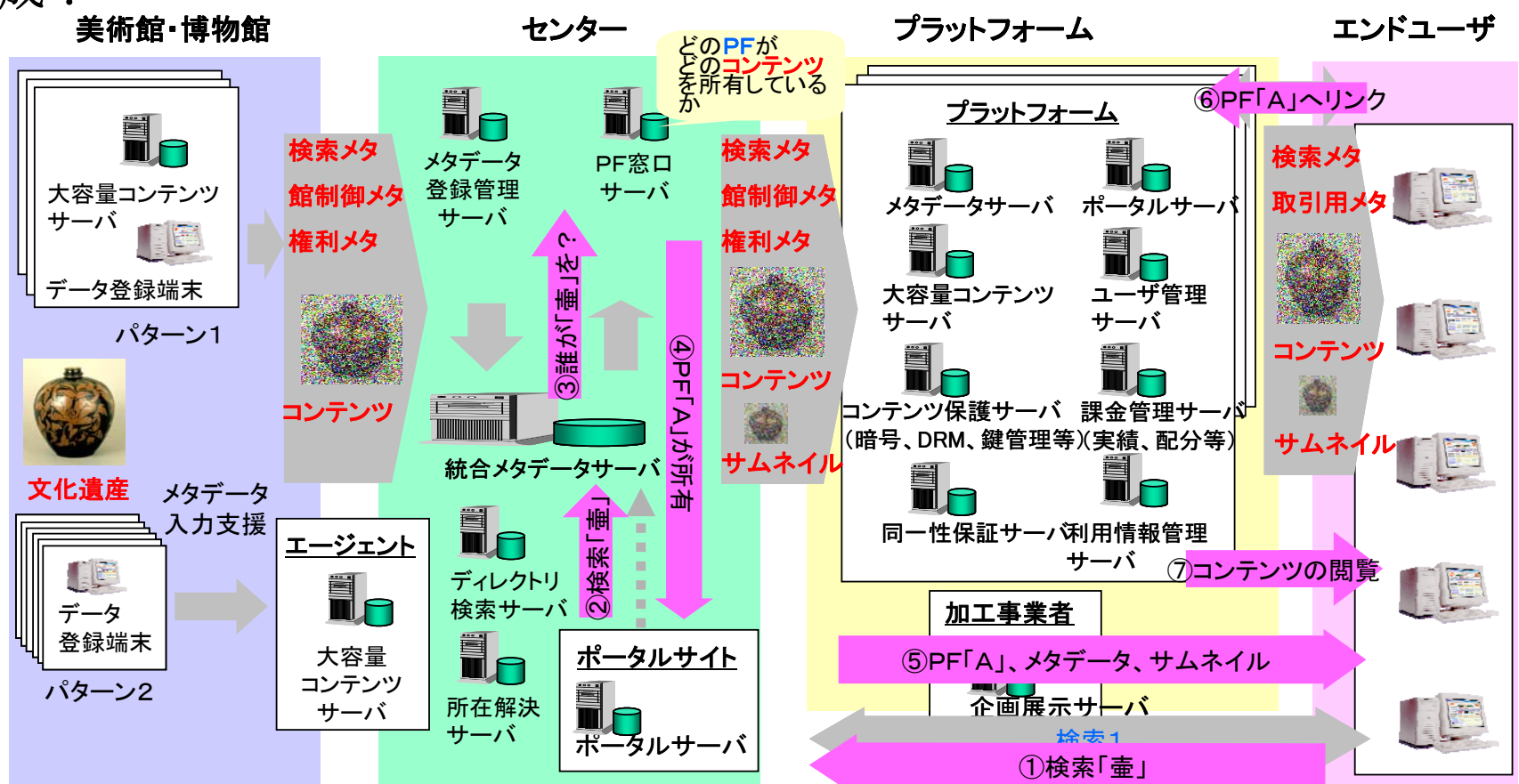
研究の概要:



研究の目的:

博物館・美術館の所蔵品等、日本の優れた文化遺産に関わるデジタルコンテンツをインターネットを通じて国内外へ広く情報発信するため、平成16年度総務省実施の実証実験「メタデータを活用した文化遺産情報のネットワーク利活用に資する技術の開発・実証」で、ネットワーク上での一元的な検索・閲覧・利活用等を可能とするメタデータ（コンテンツの属性情報）の策定と安全・円滑な流通を促進する仕組みについて実証する。

実験機器構成:



研究テーマ:メタデータを活用した文化遺産情報の ネットワーク利活用に資する技術の開発・実証(2/2)

(プロジェクト番号 JGN2-A16051)

研究機関: 東日本電信電話株式会社

研究開発成果:

①実証実験メタデータの作成

国産メタデータであるJ/Metaならびに国際標準規格に則り、文化遺産オンラインに適合するプロファイルを策定。既存/新規メタデータの接続性を確保した。

②メタデータ登録支援ツールの作成

既存/固有メタデータを持つ館ならびに新規に作成する館が簡単にメタデータを登録できる支援ツールを作成し、共通メタデータ体系への移行を容易にした。

③動画に係る検索・利用制御・権利保護方式の実現

動画に係る高度な検索(文化遺産特有の項目による検索、シーン検索等を含む)、ならびにメタデータに記載された利用制限情報(期間、期限、回数)、権利保護情報(コピー、印刷禁止)におう利用制限・権利保護を実現した。

④コンテンツの二次利用による企画展の開催

特定テーマに基づく検索により、各博物館・美術館に散在しているコンテンツを横断的に収集し、利用に向けた著作権の一括許諾取得の一例を提示した。

⑤擬似的な課金システムの実現

コンテンツの販売を想定したユーザへの擬似的な課金ならびにメタデータに基づく各館への収益分配を実現した。

⑥コンテンツの安全な閲覧/利用の実現

電子透かし及びメタデータを利用し、転々流通されたコンテンツを善意の第3者が安心して利用できるシステムを実現した。

プロジェクトのアピールポイント:

これまで国や地方の博物館・美術館等においてデジタル化された所蔵物は、多くの場合、館内の利用にとどまっている。しかし、近年のブロードバンドの普及により、今まで困難であったこれら所蔵物がインターネットを通じて提供することが可能となりつつある。インターネットを通じたコンテンツの提供には著作権保護などの課題が多いが、本プロジェクトで策定したメタデータならびにメタデータに基づきネットワーク上で一元的に検索・閲覧・利活用等を行うための仕組みを利用することで、課題解決への道筋を開いた。

プロジェクトの自己評価

本プロジェクトは、バックボートなるネットワークに高速・大容量通信が可能なJGN2を選択したことで、各拠点間を結ぶ通信環境を円滑に構築することができた。また、高精細画像や動画像などのヘビーコンテンツの通信もストレスなく行え、スムーズに実証実験を進めることができ、予定通り実証実験を完了できた。